

宮城県におけるこども・若者意見反映サポート事業

「こども・若者意見反映サポート事業」の第三弾として、令和6年1月24日(水)に宮城県へファシリテーターとこども家庭庁職員を派遣しました。

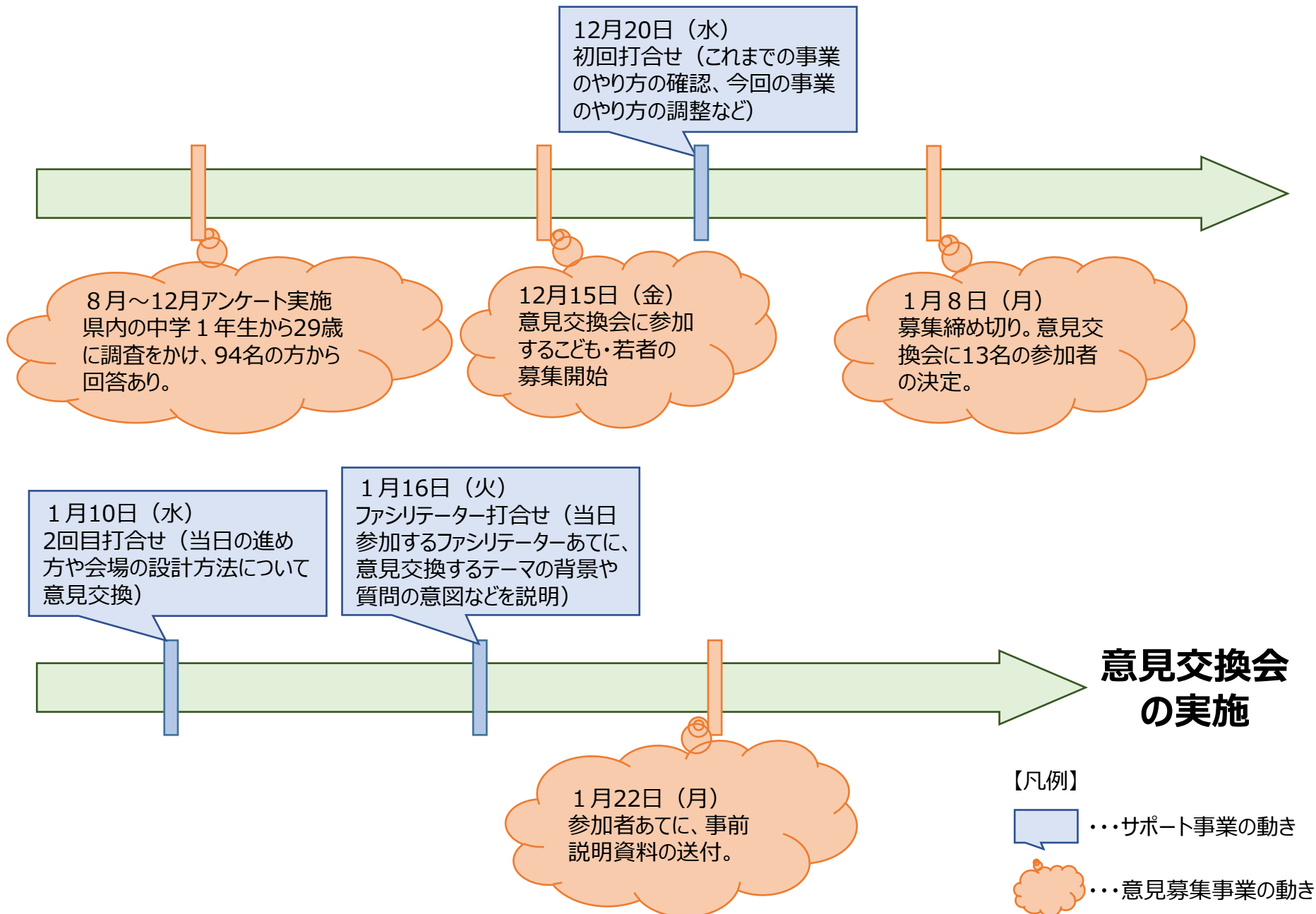
実施概要

- ◆ 事業名: 令和5年度みやぎの青少年意見募集事業
(平成28年度に開始して以来、今年度で8年目の事業)
- ◆ 目的: ①青少年の社会参加意識を高め、地域で主体的に活躍できる人材の育成
②青少年の視点や意見を県政に反映させる
- ◆ 担当部局: 宮城県環境生活部共同参画社会推進課
- ◆ 当日参加者: 14人(中学生から大学生まで)
- ◆ 派遣人数: ファシリテーター 2人
こども家庭庁職員 3人
- ◆ 質問した内容: ①こども政策への意見の聞き取りについて
(子育て社会推進課)
②痴漢撲滅に向けた方策について
(警察本部県民安全対策課)
③インターネットやSNSに起因する非行と被害防止対策について
(警察本部少年課)
- ◆ 県内市町村からの視察*: 県内4市町、県外4都道府県
*午前中にこども基本法やこども大綱・意見反映の重要性等についての講義を行い、午後の意見聴取の様子をZoom配信及びこども家庭庁職員によるポイント解説・質疑応答を行った。

<当日の様子>



みやぎの青少年意見募集事業とサポート事業の取組の流れ



今回宮城県が行った取組の工夫点など

○工夫した点

例年のみやぎの青少年意見募集事業と比較して、主に以下の点を工夫を行った。

項目	今回	例年
進行方法	<ul style="list-style-type: none">① 1班5人程度のグループに分ける。② ファシリテーターを各班1名（計3名）配置する。（※）③ 板書係を配置する。④ 担当課職員は直接グループに入らず、そばで待機する。	<ul style="list-style-type: none">① 参加者全員が1つのグループとして意見交換を行う。② ファシリテーターを1名のみ配置する（1人で15～20人程度を担当する）③ 板書係をファシリテーターが兼務する。④ 担当課職員もグループに入り、意見交換をする。
会場づくりなど	<ul style="list-style-type: none">① 開会前にBGMを流し、参加者の緊張を和らげる。② 参加者の緊張を和らげるよう、カジュアルな服装で参加する。	<ul style="list-style-type: none">① なし② なし
その他	参加者に事前にテーマについて知ってもらうため、テーマについて説明した資料を事前に送付した。	なし

※今後の宮城県の取組が推進されるよう、宮城県在住のファシリテーターをこども家庭庁から派遣した。

○次回以降の意見募集事業の改善点（県への伝達事項）

・参加者への事前説明会の場が今回設けることができず、資料の送付のみにとどまったため、事前説明会を実施することを検討するよう伝えた。

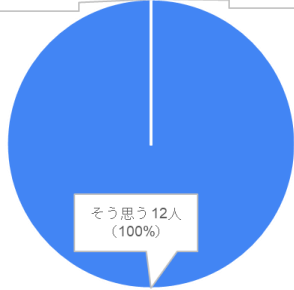
参加者・関係者の声

参加者（こども・若者）の声

Q1. 今日「みやぎの青少年意見募集事業」に参加してよかったと思いますか？

そうは思わない0人
(0%)

無回答0人
(0%)



■そう思う ■そうは思わない ■無回答

最初は少し緊張してはいたんですけど、とても話しやすい雰囲気、自分で伝えたいことを積極的に言うことができました。

話しやすい椅子やボードの配置でみんなとの距離が近く意見を言いやすかった。

最初音楽がなっていてとても緊張がほぐれ、意見をいいやすかった。

今回初めてこういう場に参加したが、同年代の人とたくさん話し合うことが出来てとても楽しかった。自分たちの意見に大人の方々が真剣に耳を傾けてくださったので参加してよかったと思った。また機会があれば参加したいと思う。

見学自治体の声

意義等については、おさらいの部分と、マスクミ対応等の新しい学びの部分があり、参考になった。

中学生や高校生がどのくらい話をしてくれるものなのか、どのように話を進めていくのか、留意点とはどのようなものか、など具体的にわかって良かった。

チャットで事務局の方が、いまがどんな場面であるかや、この場面で心がけるべきことなど、リアルタイムで解説していただいた内容が参考になりました。

自治体担当者の声

○参加者が安心して発言できる場づくりへのノウハウを知ることができ、大変参考になった。
○意見を言いやすかったとの感想があったことや意見の総量が増えたことから、例年の実施方法に比べ、グループ内での活発な意見交換の様子が見て取れた。

○各テーマの設問の問い方が難しかったことや意見交換会前の事前勉強会を行えなかったことなど、参加者が意見を出すうえで改善すべき点に気付いた。
○今後は、多くの意見が出やすいような設問作りや回答方法、周知方法について事業改善を行いながら、今年度得たノウハウを次年度以降の事業に生かしていきたい。